



今年度より着任した高木看護部長

Q今年度より常磐病院に着任し数ヶ月が経ちましたが、常磐病院の印象をお聞かせください。
高木 常磐病院は、あいさつが気持ちいいです。また、何か気になった時に人ごとにせず発信する文化が素晴らしいです。メールもうまく活用

今回は、今年度より着任した高木文字看護部長と、常磐病院の地域医療連携担当看護師として業務に当たる栗城美雪師長をご紹介します。



常磐病院の看護部長と
地域医療連携担当
看護師をご紹介します

看護部長
高木文字

地域医療連携課 看護師
栗城深雪

INTERVIEW

わった味噌やこんにやく作りを季節ごとに楽しんでいきます。いつも忙しく動く私を「回遊魚」と笑う夫と、日曜日に美味しくお酒をいただくのも楽しみです。

Qこれまで看護師の育成・教育の分野においても尽力されてきた高木部長ですが、常磐病院看護部の今後の教育体制などについてお聞かせください。
高木 前職の看護学校では、昨年、社会の変化やニーズを反映して教育課程の改正がありました。多職種と連携して地域包括ケアシステムの中で活躍する看護師がこれからの看護を担います。変化に対応して成長できること、同時に看護の基本からぶれないことが大切だと思います。教育体制を大いに活用し、日々の経験を学びとして自分を育て、看護が好き、仕事が楽しいと感じられる看護部を目指したいです。

し、役職や職種の異なる職員同士が情報を共有して、それぞれの立場で意見を言い合うのが日常です。どうしたら患者さんに良い看護や環境が提供できるか、看護師だけでなく職員みんなが知恵を出し合う職場ですね。

Q部長のご趣味は？休日は何をされていますか？
高木 趣味はスキーですが、最近ではコロナもあり行けていません。休日は育てた野菜を収穫して佃煮などに加工したり、「クラシル」フル活用で料理したりしています。「栗の渋皮煮」とかがうまかったです。母に教

わった味噌やこんにやく作りを季節ごとに楽しんでいきます。いつも忙しく動く私を「回遊魚」と笑う夫と、日曜日に美味しくお酒をいただくのも楽しみです。

Qいわき市の医療機関の先生方や看護部の方々にメッセージをお願いします。
高木 7月から市内の医療施設を訪問させていただき、地域の皆様の健康を守るために、それぞれの施設が工夫しながら役割を果たされている

ことを肌で感じました。困った時や何かをしたいと思った時、地域単位で考えて、施設や職種を越えて助け合えるような関係性でありたいと思います。常磐病院看護部はいつでもオープンですので、声をおかけください。

続いて地域医療連携担当看護師の栗城美雪師長にお話を伺いました。

Q自己紹介をお願いします。
栗城 地域医療連携課・社会支援課・退院支援係兼務をしております栗城です。私は、

ときわ会の原点であります「いわき泌尿器科」から入職し、数十年にわたり勤務しております。その間、東日本大震災を経験しました。当時、私は透析室に勤務しておりましたが、スナップ一丸となった協力体制とチームワークに支えられて乗り越えることができました。その後、常磐病院に異動となり、こちらでは病棟、外来、ときわ会の各サテライト勤務を行い、経験を積ませていただき今に至っております。



地域医療連携担当の栗城看護師

ときわ会常磐病院では、地域の医療施設・介護施設との連携を強化するため、当院の最新の医療情報を定期的にお知らせしております。



Q 地域連携担当看護師として、主にごどのような業務を担当されているのでしょうか？

栗城 主に入退院支援業務を行っています。入院される患者さんから支援対象者を抽出し、患者さんを訪問、お話を伺い退院支援計画書を作成します。患者さん、ご家族から得られた情報は、多職種に情報共有し、患者さんが安心して入退院、治療が受けられるようサポートしています。また、スムーズにご自宅、施設等に退院できるよう支援しています。地域医療連携では、スタッフから相談があった患者さんが適切な診療が受けられるよう調整しています。

Q 今後の常磐病院の病診連携・病病連携の目指すべき方向性や抱負などをお聞かせください。

栗城 当院では、入退院支援センター（仮称）設立を予定していますので、それを目標に進めています。入退院支援センターを開設することで、患者さん、ご家族が安心して入院生活が送れるようサポートすることができ、また、入院に関する業務を集約化することで看護師の業務負担軽減と看護の質の向上を図ることができると考えております。地域医療連携では、いわきの医療、患者さんを守る手助けが少しでもできるよう施設間の連携を強化し、お互いの強みを活かした患者さんの受け入れを更に行いたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

を汲み取り情報共有を密にしています。多職種と協働し患者さんができるように在宅へ復帰させることができるか社会支援や介護施設、訪問看護、訪問施設、居宅など多くの方との調整が必要であるため、普段から風通しを良くすることを心掛けています。



その後、手術室にて

TOP2+
02

8月26日・27日に、現役の医大生を対象とする体験型セミナー「第一回ロボット・サージカル・セミナー in いわき常磐病院見学会」を開催しました。

今回は、4年生が4名、5年生1名が参加。冒頭、研修医1年目の関口侖医師より、臨床研修センターの特徴をはじめ、医師住宅や食堂、院内にある温泉施設など、実際の環境について話をいただきました。

外科診療部長の黒川友博医師指導のもと、全員が手術支援ロボット「ダヴィンチ」を体験。その他腹腔鏡手術の疑似体験などをおこないました。

ときわ会常磐病院では、これからも若き医療従事者の育成に、尽力して参ります。



TOP2+
01

「第42回いわきおどり」に参加！

〜4年振りに皆で踊ることができました〜

8月8日「第42回いわきおどり」に参加しました。今回は約4000人が参加したという「いわきおどり」。2019年以降新型コロナウイルスの影響により参加見送りを余儀なくされていましたが、今回は「ときわ会」として4年ぶりに皆で踊ることができました。

ここ数年、新型コロナウイルスの対応に追われていたときわ会グループの職員たちでしたが、この日はそれを少し忘れて存分に楽しむことができました。



公益財団法人ときわ会 常磐病院 (院長 新村浩明)
地域医療連携課

窓口受付/毎週月曜日～金曜日 8:30～17:00
〒972-8322 福島県いわき市常磐上湯長谷町上ノ台57番地
TEL:0246-81-5522 / FAX:0246-81-5577

ときわ会常磐病院では、診療科の増加に伴い診察可能な疾患も増えました。患者様のご紹介に関しまして、今後もお気軽にお問い合わせください。よろしくお願いいたします。